

北東北インターハイ報告(岩手県北上市)

報告 小林 隆雄

・東京都選手団の活躍

今年度のインターハイは、3月の東日本大震災で被災した岩手県北上市で8月3日より7日まで行われた。震災直後は開催が危ぶまれたが、実行委員会の皆様の熱意のもと無事に開催することができた。

全国の都道府県大会・地区予選大会を勝ち抜いた精鋭たちが、被災地・岩手を元気付けようと全力を出し必死に競技し、多くの感動を岩手の皆さんに届けることができた素晴らしいインターハイであったと感じた。その中で、「チーム東京都」の活躍をご紹介したい。

今年の東京都出場者は、大会前から非常に多くの入賞候補者がおり活躍が期待されていた。特に東京高校は男子総合優勝候補とされ、多くの入賞が予想された。

特に男子では下記の通り3種目に優勝し、述べ10種目に入賞した。加えて東京高校が東京都勢としては実に49年ぶりに総合優勝を果たした。また、都道府県別でも第6位に入り健闘が光った。東京都高校新記録も3種目樹立し新たな歴史を刻んだ。

まずその1番目は砲丸投に優勝した鈴木 愛勇(東京3)である。ランキング2位で北上入りした鈴木は前半でトップに立つと4投目に16m99のビッグプットを見せ、他を寄せ付けずに優勝した。

1500mでは、予選で東京都高校新記録をマークした打越 雄允(久我山2)が、翌日の決勝でも快走を見せた。ゴール寸前までトップに立っていたがラストで抜かれ2位としたが3分47秒48と従来の都高校記録(3分50秒19)を大幅に更新した。レース内容も見事であった。

4×100mリレーでは、東京高校が危なげなく決勝まで進出した。迎えた決勝では40秒20と全国高校記録まで「あと0.02秒」の歴代2位の記

録を叩き出した。個々のコンディションが良かったことも要因の一つだったが、バトンパスの妙技は素晴らしく各走者の加速を100%活かした結果がこの快記録を生み出したと言えよう。

また、東京都高校記録には届かなかったが、棒高跳で優勝した船本 稜矢(日本ウエルネス3)は自己記録を一気に35cmも更新し栄冠を得た。初日の予選で4m70を1回目でクリアすると、翌日の決勝でも自己新記録を次々と1回で成功させ、4m95をも唯一クリアして優勝を決めた。

100mでは、ケンブリッジ 飛鳥・女部田 祐(ともに東京3)、200mではケンブリッジ 飛鳥・小林 将一(保善3)と2名ずつ入賞する活躍をみせた。特に、ケンブリッジ 飛鳥は両リレーも含めると10本のレースに出場し3種目に入賞する大活躍であった。(インターハイ記録報告参照)

49年ぶりの東京都勢の男子総合優勝を果たした東京高校は、砲丸投・400mRに優勝し勢いに乗ると、100m・200m・110mHでも加点し31点を獲得し初の栄冠を手に入れた。岩手県出身の大村 邦英先生はまさに、「故郷に錦を飾る」事ができ、感涙の胴上げで締めくくった。

これに対して女子は、走幅跳の加藤 咲希(明中八王子3)が8位に入賞するにとどまった。白梅学園の鈴木 翔子や東京高校の4×100mRに入賞の期待はあったが、それぞれ準決勝の壁に断ちふさがれた。ただ、1・2年生で出場した選手の多くはのびのびと競技し経験を積むことができたので、来年度以降に期待が持てると感じた。

来年度は新潟市でのインターハイであるが、今年以上の成果を上げるべく努力・精進して行かなくてはならないと強く感じた。特に女子では神奈川県・千葉県にインターハイ出場者数を上回らなくては目標達成はかなわない。

がんばろう！東京